

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態			
医学のための心理学	選択	2	1	後期	木・2	日本語		単独			
【担当教員】 川崎 隆											
【科目名の英文】 Psychology for Health and Medicine											
【授業の概要・到達目標】											
医学生としての必要な心理学的知識や態度を、講義や実践を通じて学ぶ。本授業を通じて受講生は、心理学的眼差しを、自分（professional な自分、personal な自分）にも、同僚にも、患者にも向けられるようになることを目指す。自身、他者、チームを「見立てる」「支援する」ことを通じて、心理学的視座をもつことの意味合いを考察していく。											
具 体 的 な 到 達 目 標						医学科ディプロマポリシーとの対応					
						1	2	3	4	5	6
1. 自己を見立て支援するための知識や方法を説明できる。						○					
2. 他者を見立て支援するための知識や方法を説明できる。							○				
3. チームを見立て支援するための知識や方法を説明できる。								○			
4.											
各 DP への関連度（計 10）						3	4	3			
【授業の内容】											
回数	授業項目		授業内容			担当講座・教員		方法			
1	オリエンテーション、心理学とは		心理学の全体像について概説する								
2	ウェルビーイング		自己のウェルビーイングを振り返る								
3	臨床心理学における見立てと支援		臨床心理学における見立てと支援を模擬実践を通じて学ぶ								
4	要支援者を見立てる①：傾聴の技法		反射・明確化・質問に関するワークをする								
5	要支援者を見立てる②：見立ての共有		反射・明確化・質問に関するワークの続きを行う								
6	要支援者を支援する①：模擬事例の検討		セルフケアの概念を、実践を通じて学ぶ								
7	要支援者を支援する②：評価の検討		支援の評価について、模擬事例を通じて学ぶ								
8	チームを見立てる①集団の心理学		集団の心理学について概説する								
9	チームを見立てる②多職種協働		多職種協働に関するワークをする								
10	チームを支援する①ピア・サポート：概説と企画		ピア・サポートについて学び、グループワークを通じて実践する								
11	チームを支援する②ピア・サポート：実践と評価		実践した内容を評価し、グループ毎に発表する								
12	自己を見立てる①：援助の動機と自己理解		援助動機を振り返る								
13	自己を見立てる②：ストレスと対処法		自己のストレスと対処法を整理する								
14	自己を支援する①：セルフケア		セルフケアについて、実践を通じて学ぶ								
15	自己を支援する②：アサーション		アサーショントレーニングをする								

【アクティブラーニングの内容】 授業では、グループディスカッション、様々なペアワーク（ロールプレイ）やグループワークを行う。「ピア・サポート」は、状況的に可能であれば、企画した支援を実際に実践していきたい。		【その他の工夫】 アイスブレイク、動画の活用、LMS（Moodle）の活用	
【時間外学修の内容と時間の目安】			
準備学修	参考文献や配布資料をもとに予習する。（15h）。		
事後学修	時間外にグループワークを行い、課題の準備を行う。（30h）。		
想定時間合計	45h		
【教科書】 教科書は指定しない。			
【参考書】 大川一郎・土田宣明・高見美保編著『基礎から学べる医療現場で役立つ心理学』ミネルヴァ書房、2020年、ISBN-13：978-4623070664 大竹恵子編著『保健と健康の心理学』ナカニシヤ出版、2016年、ISBN-13：978-4779511127			
【成績評価方法及び評価の割合】 レポート：60%、質疑応答・受講態度：30%、出欠状況：10%で評価する。			
【注意事項】 受講生同士のやりとりの多い講義となる。講義に積極的にコミットする学生を歓迎する。進行状況やコロナの感染状況により授業内容を一部変更することがある。			
【備考】			
リンク			
	URL		
教員の実務経験の有無	○		
教員の实務経験	大分県スクールカウンセラー（高等学校）、臨床心理士、公認心理師		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			
教員以外の指導に関わる実務経験者			
実務経験をいかした教育内容	現場経験と研究の成果から、健康に対する知見を紹介、自己や他者を見立て支援する方法を提示、討議し、受講生の理解を深める。実際に支援を立案し、実行する方法を紹介し、実習観点から学ぶ環境を作る。		
授業形態	対面		